

第17回 BC州日本語弁論大会
〈2005年3月12日(土)〉
優秀作品集

高校部門 (High School) 最終結果

Beginners 初級部門

第1位：おばあちゃんの思い出 (My Memories of My Grandmother)

Rhiannon Wong (Burnaby North)

第2位：大阪とバンクーバーの橋のように (Like a Bridge over Osaka and Vancouver)

June Lee (Riverside)

第3位：津波の感想 (Tsunami Reflection)

Judy Chang (H.J. Cambie)

努力賞：日本語を勉強する理由 (The Reason Why I Learn Japanese)

Kathy Tang (Richmond)

Intermediate 中級部門

第1位：独身の理由 (Staying Single)

Mindy Chen (Burnaby North)

第2位：なってみせます (I will do it)

Howard Chang (Burnaby North)

第3位：生きる権利 (The Right to Live)

Tiffany Tong (Carson Graham)

努力賞：日本語の世界を探して (To Discover the World of Japanese)

Youmi Kim (Burnaby Mountain)

Open オープン部門

第1位～第3位：該当なし

努力賞：日本はイラクに自衛隊を派遣すべきか

(Should Japan send self-defence force to Iraq?)

Jessie Hu (Sir Winston Churchill)

私のおばあちゃんの思い出

リアノン ウォング

私の宝物は私のおばあちゃんとの思い出です。小さい頃、私のおばあちゃんは両親が帰るまで、私の面倒を見てくれました。テレビでバラエティ番組やアニメをいつも一緒に見てくれました。そして、おばあちゃんと私はチャイナタウンにお昼を買いに行きました。それから、マクドナルドでお昼を食べました。そのとき、はじめて私がマクドナルドのハッピーセットを食べました。とてもおいしかったです。

それから、おばあちゃんの家へ帰って休みました。大抵昼寝をします。でも、時々私が寝ない時、おばあちゃんは私を公園へ遊びに連れて行ってくれました。おばあちゃんの家は、とても面白かったから、帰るのをいやがりました。毎日喜んで行きました。

でも、学校へ行くようになってから、おばあちゃんに会う日が、だんだん少なくなっていきました。わたしが7年生の時、おばあちゃんは心臓病で、突然、入院しました。2週間後、私が体育をしていた時、校長先生が、私に声をかけました。「お母さんが来ているよ。」ちょうどその日は、おばあちゃんが病院から退院する日で、私とお母さんは、おばあちゃんを迎えに行くつもりでした。おばあちゃんが喜んで支度をしているとき、発作が突然起こったのです。誰もどうすることもできませんでした。おばあちゃんは再び目を開けませんでした。

お葬式の時、私は弔辞を述べました。その弔辞を書く時、幼い頃のおばあちゃんとの思い出がよみがえり、涙が止まりませんでした。大きいメガネをかけて、小太りで、やさしいおばあちゃん、モスボールのにおいがしたおばあちゃん。

お葬式の後、母が私に、「おばあちゃんの結婚リングとダイヤモンドリング、欲しい？」と聞いたのです。ピカピカするリングをつけた時おばあちゃんの暖かさが伝わって、また涙が出てきました。おばあちゃんにもらったリングは、いつも私の側で、私を守ってくれるでしょう。

そして、おばあちゃんの微笑みは、これからも、私の心の中で生きていくでしょう。

「大阪とバンクーバーの橋のように・・・」

ジューン リー

「 Press 1 for English. 日本語は2番。(Beep!) 大阪とバンクーバーの間に成功的な交流の事業を望むビジネスの皆さん、私達に任せてください。2箇所の間を結ぶ交流の橋になってあげます。通訳はおまけの サービス!」・・・

皆さん、おはようございます。今時でも自分の将来の職業を決めていない青少年が沢山いると思います。最近まで、未来について不安が一杯あった私には大切な友達のまあやが未来に関してアドバイスしてくれました。だから私はまあやと一緒に大阪とバンクーバーの交流の橋になることにしました。

まあやは去年大阪からバンクーバーに来た交換留学生でした。日本へ帰国後もメールですっと良い友情を続けたまあやがこの冬休みバンクーバーに再び来ました。一緒に留まった時間中、特に印象に残ったことは私達の将来の話でした。「大人になったら大阪とバンクーバーの文化と事業の代表者になりましょうね」とまあやが提案しました。あの瞬間まで私は自分の適正に合う職業を考えていませんでした。でも、まあやの提案を聞いてから、大阪とバンクーバーの交流の仕事を二人で出来るのがとてもうれしくて興奮しました。

話しながら、私達は大阪とバンクーバーの交流を増進するために 沢山の方法があることに気付きました。まずは、貿易の事業に参加することがあります。例えば、有名で良い映画があつたら翻訳して相互に輸入とか輸出が出来ます。それに、共同エンターテイメント・プロダクション・カンパニーも自分たち作って映画を共に制作したいと思います。

または、食べ物は文化を代表するので、大阪とバンクーバーの食べ物をよく組み合わせた新時代のフュージョン・スタイル料理を作るつもりです。そのあと、"OOVAN" というフュージョン・レストランも開けば、ああー、この職業は結構良いお金になりますね。

夢と新しいビジョンをくれたまあやが居なかったら私は今も未来について迷っているかもしれません。ラッキーなことには、まあやと将来の目的に向かって今から準備が出来ることです。まあやと私の強い友情と一緒に努力して、大阪とバンクーバーの交流を誰よりも最高に作る自信があります。今から5年先の私達の活動を期待してください。

津波の感想

ジュディ チャング

皆さん、おはようございます。これから私はアジアで起こった津波の事を話たいと思います。

去年、十二月二十六日に起こった自然災害はとても不幸なイベントでした。たぶん地球にとって今世紀最大の災害だったと思います。今の時点で二十万人以上の方が亡くなりました。しかし、不幸ではありますが、私はこの津波から得る物がありました。今まで私はニュースを見ても人は自分の事しか考えてないと思っていました。

しかし、この津波は人々の助け合っている姿を私に見せてくれました。人々の中の利己的な考えは消え、助けたいと言う気持ちが現れたのでしょうか。こうして私はまたこの世の素晴らしさに気づく事ができました。この社会の人として、私達は皆助け合う事ができます。どんなに小さい事でも助けになります。

皆さんバタフライ効果という言葉聞いた事がありますか。どんなに小さな蝶々でも羽を飛ばせば地球の反対側で竜巻を起こすことができる。または、小さな力が結果的に大きな影響をもたらす。私はこの理論を信じます。ですから、どんな小さい事だろうと、大きな影響をあたえることができると信じています。こんなに遠いのに、津波被害者の事を思うと悲しくなったり、助けたい気持ちになったりするのには全ての生き物の中で、人間が一番感情を持っているからです。

私達は防ぐ事のできない被害にこんなにも悲しみを感じるのにまだ国々の間では争いが起こってるのを不思議に思いませんか。

そろそろ反省し、考え直す事も必要です。そう思いませんか。

独身の理由

ミンディー チェン

「はい」と言ったのは クラスで私一人だけでした。先生に「どうして」と聞かれ「責任が重すぎるから」と答えました。ある日、日本語のクラスで「日本人と結婚」の読解を勉強した後、「結婚したくない人」という質問への答えでした。

私は独身主義という訳ではなく、私の場合は結婚よりも仕事を選びたいと考えたのです。

結婚は二人に喜びをもたらすというのは分かります。でも時には自分達の夢をそれぞれあきらめなければならないことも多いのです。特に女性は。

若い頃、母は検察官になりたかったから、タイワンの大学で法律学を勉強しました。しかし、そんな時父に会いました。母は法学部をトップの成績で卒業しましたが、結局検察官になる夢を諦め結婚の道を選んだのです。みんな、今、母は二人の子供に恵まれ完璧で幸福な人生を送っていると思っています。

ところが去年の夏休み台湾に帰った母は大学時代の友達に会いました。その晩の母の表情を一生忘れることができず。それは自信を失いあやふやでちょっと嫉妬と悲しみのまざったものでした。母の同級生は今や有名な弁護士や裁判官や検察官になっていたのです。

でも母はといえばどこにでもいる主婦です。口には出しませんが自分も検察官として成功したかもしれないと思ったのでしょうか。

祖母も主婦でした。平凡な主婦だった祖母に悲劇が起こったのは 40 才になってからでした。突然、祖父がうらぎり若い女性と家を出て行ったのです。祖母はそれから三人の子供を養うために必死で働きました。そして、今祖母は病院でガンと闘っています。不思議なことに 30 年前に別れた祖父の名前を呼び続けているのです。

結婚とはなんと不安定なものでしょう。

母が 8 年も結婚するのを迷ったのはまさにこの祖母の失敗を見ていたからでした。

結婚がうまくいくかどうか誰にも分かりません。だから、私は独身でいたいと思ったのです。女の人でも経済力を持っていれば何かあった時困らないでしょう。結婚とキャリア、それぞれいい点と難しい点があります。でももし社会が女の人にだけ責任を負わせたり期待したりするのでなく、また男の人でも女性を尊重し、助けあっていけるならば女性にとって結婚とキャリアの両立は難しくないと考えます。

仕事をしたい私にとって結婚か独身か今は不確かです。でも母にとっても祖母にとっても家族が一番大切なものであるというなら、私も、結婚するのも将来の選択肢のひとつかなと考えるこの頃です。

なってみせます

ハワード チェン

僕は17歳で、高校3年生です。もうすぐ卒業します。今はその後の道を決めなければなりません。子供の頃の事件が僕の目指すものの道を決めるきっかけになりました。7歳の時、台湾に仲の良い友達がありました。

その友達、ジジュンとは幼稚園からほとんど毎日一緒にバスケットをしたり、昼ご飯を食べたり、お互いの家に遊びに行ったり、来たりする仲でした。ジジュンは負けず嫌いで明るい性格でした。

そんな彼にその後起こった事件から、もうジジュンと会うことが出来なくなりました。ジジュンの家族はちょっと貧乏でした。お父さんは小さい会社で働いていて、4人の家族を養うことはとても大変でした。小さい家に住んでいました。

その家はジジュンのお祖父さんが残した家でした。お祖父さんは事件の1か月前に亡くなり、ジジュンの親類とその家の所有権のことで喧嘩になったのです。そして、ついに、その親類はジジュンの家族を訴えました。結局、ジジュンの家族が負けて所有権を失ったのです。負けた理由は、弁護士を雇うことが出来なかったからです。お父さんの収入で弁護士を雇うことが不可能でした。

もう家がなくなったので、台湾の南にいる親類の家に移ることになりました。失った家の家具は全てお祖父さんのだから、少ない荷物しかありませんでした。最後にジジュンと会ったのは引っ越す前の日でした。「家族と南に移る。でも、どこかは まだ分からないんだ。」と言いました。彼の顔には悲しみが溢れていました。僕も同じでした。「さようなら」と言った後、彼は寂しそうに去って行きました。良い友達を失い、とても悲しかったです。その時、僕はこれは貧しくて弁護士を雇えないことから起こったのだと強く思ったのです。どうしてこんな不公平なことが起きるのだろうか。弁護士が人を助けられないならば、何故存在するのだろうか。弁護士にも生活があってお金が大切なことは分かります。しかし、この答えは、僕を満足させるものではありませんでした。それ以来、弁護士になりたいと思うようになりました。僕はどんな人でも、弁護を必要とする人を助けたいです。

だから、その後その夢の実現のため、人前でのスピーチをするチャンスがあれば、進んで手を上げ、苦手な英語の勉強にも努力しました。だんだん良くなっては来ましたが、今でもスピーチをするときは、怖くて震えてしまいます。でも、あのジジュンのような運命を見たくないのです。法学部に入って、一生懸命勉強します。そして、絶対弁護士になってみせます。

生きる権利

ティファニー トング

皆さんこんにちは。

皆さんも、小さい頃「私は先生になりたい」とか「消防士になりたい」とか思ったことがあると思います。私は獣医になりたいという夢をずっと持っています。でも最近、私の大好きな生き物を助ける前に、犠牲になる動物が多すぎるということ、始めて考えさせられた出来事がありました。

今は、生物のクラスで解剖をした時の過程は少しぼやけましたが、手の感触、鼻についた科学質のつんとした匂い、目に入った動物の屍骸、そして「解剖なんかしたくない」という叫びや胸が悪くなるような気持ちは一生脳の奥に刻まれてしまいました。

時間が経ってから考えてみるとそれは怖さではなく、私が自分の手で友達を殺しているような実感を味わったためでした。

勉強や研究のためだけに命を奪い取る価値は本当にあるのでしょうか。このような授業はどんなことを若者に教えていると思いますか。

私は生き物が単なる工具だと暗示していると思います。生きる権利がある物ではなく、感情を持つ物でもなく、ただ人間が好き勝手に使える物だと言う考えを学生に伝えていると強く感じます。

この弱い者に対する侮りは、ほかの動物や人間に向けられると、犯罪に結びつく可能性があると言うことも確かにあると思います。犯罪者の中には、「高校の時の解剖が犯罪のきっかけだった。」と言った連続殺人犯もいます。

これは勉強するためだからしょうがないと言うかもしれませんが、実は、選択の余地はたくさんあります。ビデオや模型、それから一番面白くて、知識が満載しているのはコンピューターのシミュレーションです。解剖過程のビデオを見たり、解説を聞いたり、スクリーンの横にある資料を読んだりすることが全部できます。同じ事を習うのに、生き物を殺す心配も罪悪感もまったくありません。

皆さんに、想像していただきたいんです。もし、高校で解剖されるのはヒトデやねずみではなく、自分の家にいる犬や猫だとしたら、どんな気持ちになりますか。全州、全国の人が騒動を起こすにちがいありません。でも、ペットと言う動物でも解剖される生き物でも同じく自分の考えがあり、痛みを感じ、人間が尊重すべきこの地球の一員です。どうして種類が違うだけで、扱いにそんなに差があるのでしょうか。

私の経験から話すと、高校での動物解剖の感想は一つしかありません。それは、解剖から習うことはありましたが、命を奪い取るほどの価値はありませんでした。どんな方法でも長所も短所もあり、何が一番良いのか、何がもっともふさわしいのか。皆さんも一緒に考えていただければうれしいです。

ありがとうございました。

大学・一般部門 (University and Public) 最終結果

Beginners 初級部門

第1位：将来の道 (My Destination)

Sharon Yuen (UBC)

第2位：人生に対する態度—楽観的な生き方

(An Attitude Towards Life-One of Optimism and Enthusiasm)

Angel Wong (UBC)

第3位：大切な日本語の先生 (A Special Japanese Teacher)

Cory Stade (SFU)

努力賞：中国人の日本語を習いたい理由 (Reason Why a Chinese wants to learn Japanese)

Julie Chnag (UBC)

Intermediate 中級部門

第1位：離れていった友達 (Good-bye, My Dear Friend)

Heena Kim (SFU)

第2位：アニメで学んだもの (Japanese Culture Learned from Animations)

Jong Hoon Kim (Kwantlen)

第3位：忘れられない事 (Unforgettable Thing)

Ping-ya Wang (Langara)

努力賞：オンラインショッピングについて (About Online Shopping)

Tiffany Wang (UBC)

Advanced 上級部門

第1位：該当なし

第2位：カナダ人って? (What is Canadian?)

Daryn Ma (UBC)

第3位：ちょっとだけ (Just a Little Bit)

Yao-Chang Yeh (UBC)

Open オープン部門

第1位～第3位：該当なし

努力賞：日本よありがとう! (Thank you, Japan!)

Jonathan Goodman (Capilano)

将来の道

シャーロン ユーエン

将来について考える時、いつも頭が痛くなります。大学での専攻は、ビジネスにしたけれども、時々ビジネスがあまり好きじゃありません。実は、将来したいことが決まっています。例えば、先週、小児科を勉強したくて、医者になりたいと思いました。そして今週、私は日本で英語の先生になりたいと思っています。実際、日本には格好いい男の子が多いから、日本で就職したら、彼氏が見つかるかもしれません。このように、沢山考えが浮かんで来て、将来の計画が決まりません。

しかし、私は将来にしっかりした計画が無くても良いと思います。最近、人々は小さなことを心配し過ぎます。私は友達と宿題をしたりテスト勉強をしたりします。私達は一日中家に居て、6時間勉強します。それは、将来良い仕事が欲しいからです。しかし、学校も大切だけれども、学校より家族と友達のほうがもっと重要だと思います。

去年の12月に、アジアで悲惨なツナミの被害がありました。一瞬で、30万人以上の人が、敢えなく亡くなりました。私はその時、一人の生涯はとても短いと思いました。その地域に住んでいる人が毎日食べ物と清潔な水に困っていると聞いたり、お金が無い国に住んでいる人のニュースを聞いたりする時、私は自分の問題が小さいように思います。

将来の道が決まらないと、とても不安ですが、私は心配しないようにしています。そして一日一日を大事に一生懸命生きて行こうと思います。皆さんも、毎日を楽しんでくださいね。

人生に対する態度---- 楽観的な生き方。

エンジェル ワング

昔から、人間はずっと同じ質問をしてきました。人生の意味は何ですか。私達の存在の目的は何ですか。どうして私達はここに居て、どこに行くのでしょうか。

私達がこのような質問するのはとても自然なことです。皆さんは人生の中でこんな質問をしていると私は思います。生活の必要から、私たちは物質的で、お金は大切だと思います。失敗したり、出来なかつたりしたことが私たちの人生に影響を与えます。人生には大変なことが沢山あります。よく落ち込んだり、がっかりしたりします。ある人々はその苦しみを耐えるができませんから、ほかのやりかたを探して、苦しみから逃げようとします。たとえば、自殺して、貴重な人生を終わらせてしまいます。

実は、人生は本に似ています。どの本も同じではなくて、とてもユニークです。それぞれの本の内容と長さとはあらすじは本を最後まで読んでしまうまでわかりません。ある人は先のことが気になって、今を楽しめません。ある人は現在の状況に満足していないけれども、この状況について何もしようとしません。ただ受け入れるだけです。単調で退屈な生活を生きています。どちらも人生に対する態度がとても受け身で、積極的ではありません。

もう一つ種類の人があります。彼らはもっと楽観的です。困った時でも、活発に、打ち勝つ努力をします。私もこのような態度が大切だと思います。一生懸命生きることとても大切だと思っています。困難なことは人生の中で避けられないものですが、もしもがんばれば、私達はきっと強くて、成長すると思います。避けられないものから私たちは多くのことを学びます。苦しみを経験して始めて、今あるものが大切だということを学びます。楽しくて幸せな時を大切にするようになります。未来を心配ばかりする人は現在を完全に楽しんでいません。

実は毎日の生活の小さいこと、たとえば経験したことや出会った人から学んだことを発展させて、人生をもっと豊かなものにしてくれます。私にとっては人生の意味とはこういうことだと思います。本の終わりがどうであっていいのです。一番大切なのはその過程、つまりプロセスなんです。本当に人生を理解するためには経験しなければなりません。すべてのページが大切なのです。一つ、一つのページが集まって、一冊の本になるのです。人生を悲観的に見て、私たちの生活を積極的に生きなかつたら、それは本のページを早くめくるだけで、何にもなりません。同じように人生もこのように送ればただ浪費するだけです。その一方、楽観的で、人生にあるものを感謝して毎日を送っていると、人生を楽しむことができ、もっと人生を生きることができます。このように、人生という本は長さや結果が大切なのではないのです。このような態度で人生を送れば、きっと楽しくて、おもしろい人生になると信じています。

大切な日本語の先生

コーリ ステディー

こんにちは皆さん、私の名前はコーリ・ステディーです。今、SFUで日本語と言語学を勉強しています。今日は私と日本語の関わりについて話します。

子供の時からずっと言葉に興味を持っていました。高校の時、友達はみんなフランス語かスペイン語を取りましたが、私は英語と全く違う言葉を勉強したいと思ったので日本語を選びました。初めて日本語の平仮名や漢字を見た時、とってもきれいな文字だと思いました。習い始めてすぐ日本から来た学生と文化交流でお互いの国の音楽を交換する機会がありました。そのとき私は浜崎あゆみさんのCDをもらいました。日本の歌を聴くのは初めてです。勿論歌詞は全然分かりませんでした。でもあゆみさんの歌声が私の頭の中より心の中に先に入ってきました。

・・・不思議でした。言葉は全然分からないけどあゆみさんの気持ちが良く分かりました。何度も聞いたし、何度も歌いました。しばらくして歌詞はインターネットで調べました。その後辞書で歌詞の意味も調べました。そうしてCDから沢山の言葉を習いました。歌を聴くことはとても楽しいし、良い勉強にもなります。CDから習った言葉を使う時、私は時々心の中で歌っています。

高校や大学でとても素敵な日本語の先生に出会いましたが、浜崎あゆみさんも私の大切な日本語の先生です。彼女が私に日本語と日本語の気持ちを教えてくれました。

どこの国でもどんな言語でも人々は幸せや悲しみや愛について歌を作ります。きれいな言葉をメロディと一緒に聞くと、人の悲しみや幸せな気持ちがもっと良く分かると思います。言葉が分からなくてもメロディが気持ちを伝えてくれます。あゆみさんの歌声は私と日本を繋いでくれました。

今は他の歌手の歌も聴きます。特に車を運転する時、B o AやThe Brillirant Greenの歌をよく聴きます。でもやっぱり、あゆみさんが一番の好きな先生です。

これからももっと日本の歌を聴いて歌って大好きな日本語を勉強続けたいと思います。どうもありがとうございました。

はなれていった友達

キム ヒーナ

皆さんは、長い間一緒に過ごした友人と、何かの理由で、離れてしまった経験をしたことがありますか、最近、私もそんな悲しい経験をしました。その時、とても寂しくてずっと落ち込んでいました。実は、6か月前に私の大好きな日本の漫画「花より男子」がついに、終わってしまったのです。

10年以上出版されていたこの漫画は、日本は勿論、韓国や台湾でも、翻訳本が出ていて、すごい人気でした。私も小学6年生から、去年までずっと読んでいたので、この漫画と一緒に成長したといっても言い過ぎではありません。その漫画が終わってしまったと知った瞬間、思わず泣いてしまいました。単に漫画の本に過ぎないのですが、私にとっては、漫画以上の意味を持っています。

まず、この漫画がきっかけで、日本語の勉強を始めるようになりました。「花より男子」を読み始めた時、どうせなら、日本語で読みたいと思うようになりました。でも学校の勉強もしないで、漫画ばかり読んでいた私に、両親は日本語を学ぶチャンスを与えてくれませんでした。

6年前カナダに来てから、幸運にも、日本語を習い始めることが出来、最近では日本語で読めるようになって、本当にうれしいです。漫画でも、何かをやり遂げたという充実感があります。それに最近になってやっと、両親も理解してくれ、日本語の勉強を頑張っている私を応援してくれています。

私にとって、この漫画が大切な理由は、中高校時代に、この漫画を通して、色々な想像をしたり、夢を見たりしたからです。「花より男子」を簡単に紹介すると、主人公のつくしちゃんという女の子が、両親の希望でお金持ちしか通っていない高校に入れられ、そこで起きる色々なお話です。

最初つくしちゃんは、他の学生からいじめられますが、くじけないで毎日学校に通います。また、超お金持ちの道明寺君とも出会い、2人の間にも色々なことが起きるのですが、最後は相思相愛になり、ハッピーエンドで終わります。

漫画の登場人物は、私にとってリアルな存在だったので、いつも彼らと一緒に、喜んだり泣いたりしました。本当のことを話すと、つくしちゃんのボーイフレンド、道明寺君は私の中学生時代の理想の男性でした。女子中学校に通っていたので、男子学生に会う機会がなかった私は、いつも道明寺君と夢の中でデートをしたりしました。時々、つくしちゃんも現れて、私たちのデートをじゃましたこともあったんですけどね。

大人になった今も、この漫画を読んでいる瞬間だけは、心が純粹になって、まるで子供のころに戻ったような気がします。小学6年生の時に持った印象と、全く同じ気持ちを、まだ感じるすることができます。たぶん、この漫画は私を時々昔に引き戻すタイムマシンみたいな物かもしれません。

6か月前に、10年以上共に成長してきた友人達の話は終わってしまいました。でも、たとえ、漫画は終わってしまっても、「花より男子」は私の心の中で、宝物として永遠に残るでしょう。

以上、私の子供っぽい話を聞いて下さって、ありがとうございました。

アニメで学んだもの

ジュンフーン キム

皆さんこんにちは。

皆さんは日本人の友達はたくさんいますか。私は日本人の友達がいなかった時、初めて日本人の友達ができたら、韓国の食べ物をおごってあげたいと思っていました。そして、たぶんその日本人の友達と一緒に食べる時にも、"おいしいよ"と言ってくれて、食べた後でも"ああこんなにおいしいのおごってくれて本当にありがとうね"と言ってくれるだろうと思っていました。でも、おごってあげた後、その日本人の友達の事をもっと知って、実は辛いものは苦手で、以前一緒に食べたのはおいしと思わなかったという事が分かったら、きっと悲しくなるでしょう。皆さんはそんな経験はありませんか。

私は日本語を勉強する前には、日本の文化も知らなくて、日本人は本当の気持ちを言わない人たちだと聞いていました。だから、日本人は人の前では本音を言わない、信用できない人だと思っていました。でも、これは偏見でした。ところで皆さんは日本のアニメが好きですか。私はアニメがとても好きです。なぜならアニメのお陰で私の持っていたそういう偏見を無くすことができたからです。実は私はアニメを全く見ませんでした。でも、日本語の勉強を始めた時、日本に留学がしたかったんですが、それができなくなって、代わりにアニメを見始めることにしました。それで、そのうちすっかり好きになったのです。私が見たアニメの中で高校生の話がありました。そこで、ある日、主人公のクラスに転校生が来ました。それからクラスの友達と一緒にインドカレーを食べに行ったんですが、それが実はその転校生の一番苦手な食べ物だったんです。でも、その転校生はそれをどうしても言えなくて"ああ、おいしいよ"と言いながら全部食べたんですが、食べた後で気分が悪くなってしまいました。これがもし、私と私の友達の場合だったら、私も多分本当のことは分からなかったでしょう。でも、アニメではクラスの友達側からも、転校生側からもみんな見せてくれますので、私は「ああ。その転校生が"それは嫌いだから食べたくないよ"と言わなかったのは何か悪気があって嘘をついたわけではなくて、おごってくれた友達のありがたい気持ちを受け取るようにしたんだな」とやっとな気がつきました。この他にもいろんなアニメを見て日本の文化では個人のためよりみんなの生活を優先し、他の人に迷惑を掛けないようにするのが大事だと分かりました。そのお陰で、今はそんな文化で育ってきた日本人なら、もしおごってくれた食べ物が本当は苦手だとしても、きっと"おいしかったよ。おごってくれてありがとう"と言ってくれるんだと思うようになりました。そして、私の偏見も無くすことができてとてもよかったです。

言語と言うのはそれを使っている人たちの文化を分かった上で、正しく使えるものだと思います。また、日本に行かなくても、日本人の思いを込めて作ったアニメでなら、本では学べない日本人の文化が学べると思います。これからもアニメから日本のことをもっと学びたいと思っています。ありがとうございました。

忘れられない事

ピンヤ ウェン

私が小さかった時、父は中国へ働きに行きました。それで母が一人で私と妹を育てました。そして私が13歳の時、母は私と妹をカナダに移民させました。母は強い女性なので、私達の目の前では滅多に泣くことはありません。しかし、一度私は母が泣いているのを見たことがあります。

私は以前とても悪い娘でした。いつも喧嘩をしていたので、母とはいつも話しにくかったのです。こちらへ来て初めて母に会いに台湾へ帰った時、家族の家はもうなかったの、母の友達の家泊まっていた。私はカナダへ帰りたくなくて、毎日母と喧嘩をしていました。喧嘩に疲れてしまって、「誰でもいいから友達と住む！」と言って、自分一人で行く所を探しました。それから毎日、母と会っていたのに、全然話をしませんでした。

最後の喧嘩が一番大きかったです。母に「どうしてもカナダへ帰らない」と言いました。母は非常に怒ったので、私に私のパスポートを投げつけて「明日の朝早く出て行きなさい。」と言いました。それで、私は荷造りをして、友達に電話をしました。その夜は眠ることが出来ませんでした。多分、母も同じだったと思います。

母の友達の家では、母と妹と私の3人で1つの部屋に泊まっていた。母は真ん中に寝ていました。二人寝た後、「明日、どうすればいいんだろう」と目をつむって思っていた時、母が私の頭にやさしく手を当てました。母が泣いているのが聞こえました。母は私が寝ていると思っていたようです。私は母を悲しませた事をとて後悔しました。

次の日の朝、私は出かけないで、家に居ました。「どうしてまだここにいるの？」と母は聞きました。私は母にパスポートを返して、「行く所もお金もないから、お母さんと一緒に行く事にした。」と言いました。そして、母と妹と三人でカナダに帰って来ました。この思い出は一生忘れることが出来ないと思います。

親が決めた事に従う事は、私の生まれた国の文化の中では、当たり前かも知れませんが、妹と二人で、言葉も何も分からない外国に来て住む事は、とても怖い事でした。私の周りには、私のような辛い思いをした移民の子供達が沢山います。でもこの辛くて悲しい経験は、私を少し大人にしてくれたのかも知れません。

あれから7年が経ちましたが、今ではこの美しく素晴らしいカナダという国で元気に暮らしています。この国を私の国と呼べる日もいつかきっと来る様な気がします。今でも時々母とは小さな口げんかをしますが、私が我慢するので、母は満足そうです。

カナダ人って

マー ダリン

日本に滞在していた時、こういうことがありました。そば屋さんで、あるおばさんが私に話しかけてきました。私が留学生だと自己紹介をすると、おばさんは少しびっくりしたようでした。もしかしたら、私は日本語が上手なので、私を日本人だと思ってしまったのかもしれない。そして、「私はカナダ人です」と言ったら、おばさんはさらに驚き、食べるのをやめ、私の顔ばかり見ていたのです。私は気にせず、そばをすすり続けていたら、隣に座っていた友達がおばさんに、私が移民であるという話をしてくれました。実際にこのような場面を日本で何回も経験したのです。彼らにとって、私のような顔はカナダ人というイメージに、何となく繋がらないように感じました。そこで、カナダ人の顔と言えば、どんなものを想像するのだろうかと考えてみました。また、カナダ人は、他国の人達から認められる共通の特徴、すなわち、アイデンティティを持っているのでしょうか。カナダ人というのはいったいどういう人達なのでしょうか。

まず、私達カナダ人の共通の特徴を見つけてみましょう。例えば、言語という国家の象徴に欠かせない要素においては、カナダには公用語が二つあります。けれども、政府の統計によると、どちらの公用語も流暢に話せる国民は 20 %も占めないそうなので、言語の面からはカナダ人全国民に共通の特徴があると言いがたいです。また、民族構成においては、カナダは色々な民族から成り立ち、様々な文化や伝統が共存している国です。つまり、共通の伝統や民族的背景などという文化的な特徴を持っていないわけです。そのため、カナダ人同士の中からは共通の特徴を見つけにくく、自分たちのアイデンティティがなかなか見出せないようです。

その一方、カナダ人に次のような質問をしてみると、カナダ人にはアイデンティティがあるかのように聞こえます。「あなたはアメリカ人と同じでしょうか？」(とある人が聞き、)「違いますよ。私はアメリカ人じゃないですよ！アメリカ人みたいに傲慢じゃないですよ。」(とあるカナダ人が答えました。)大抵このような会話になります。つまり、アメリカ人と比較すると、カナダ人たちは、アメリカ人とは違うという、共通の特徴を見つける訳です。私の日本研究の先生がこの特徴を、カナダの「ジャナイ文化」と呼ばれます。それは、カナダ人はアメリカ人と同じジャナイという意識を主張する観念であり、私にもそういう意識があります。

しかし、私がカナダ人に移民して以来 11 年間の間に、他国の人との比較から浮かび上がるものではない、カナダ人の共通の特徴を発見しました。それは、種々の人種から成り立ち、はっきりした民族的なアイデンティティを持たないカナダ人たちは、自国の文化が優れているという偏見を持たず、異文化をよく認識し、受け入れることができるということです。私はこの異文化に対する寛容な態度を持っているからこそ、日本へ留学した時に、ホームステイの人たちと仲よく、別に大きなショックも受けず、あまり苦勞もせず、新しい環境に順応できたわけです。この特徴は残念ながら、外見には現れないので、誰でも見た目でカナダ人を見分けることができないわけです。

つまり、もともと民族という単位で存在していない、カナダ人というの、独特の顔がなく、かえって独特の内面的な特徴を持っている人達なのです。だから、初めて会う人が、私をカナダ人だと分かってくれなくても、それが分かって驚かれても、私は気にしません。外見よりむしろ自分の心や行動を以て、他国の人にカナダ人は何かを伝えたいと思うのです。

ちよつとだけ

ヤオチャン イエ

いまの社会は、科学技術や学問の発達によっていろいろな選択肢がありすぎて、若者は自分が一体何が欲しいのかわからなくなってしまうようです。そのため、他の人にただついていだけ、つまり、なんでもちよつとだけ、ほかの人のまねをして、みんなと同じような行動をすればいいという考えを持っている人が増えています。

私の友達の彼女は、アジア人の女性で、カナダに来てまだ一年も経っていません。友達としてはすばらしい人ですが、彼女の挨拶の仕方は何だか不自然な時があります。ある日、私が部屋のドアを開けたまま勉強していると、彼女は部屋に入ってきて、後ろから私を強く抱きしめて、私に、情熱的にキスしました。ショックをうけて、私は、コンクリートのようになってしまいました。保守的な彼女はなぜこういう行動を取ったのでしょうか。私の知っている限りでは、彼女はそのようなことをする人間ではなかったはずです。もしここがアジアだとしたら、彼女は同じような行動を取ったのでしょうか。カナダに来て色々な人と出会い、今いる文化に溶け込もうとしているせいでしょうか。もしかすると、彼女は「ちよつとだけ」の心理で、気づかないうちに周りに影響されて、自分の文化や行動の主体性を失ってしまったのかもしれない。

またある調査によると、80%の若者は周りの友達に影響されて、煙草や、マリファナなどのドラッグを吸い出したそうです。友達がみんな吸っているので、自分だけしないと、仲間に入れてもらえないのではないかと心配して、吸いたくもないのに、一時的に、「ちよつとだけ」の心理で、吸ってしまうということもよくあります。

歴史の具体例も調べてみましたが、その中で、特に、有名なのは、十五世紀ごろ、イタリア半島の南にあったクラステという小さな国の話です。ある山のふもとに井戸があり、その水は澄んでいて、とてもおいしかったそうです。ですから、近くに住んでいる住民は、みんなその井戸水を飲んでいました。しかし、実は、その水は、人を混乱させる力をもっていました。それを知っている国王は、何回も人民に忠告しましたが、「ちよつとだけ」の心理の強い人民は、みんな飲んでいいるから大丈夫だろうと思い、結局みんなの秩序が乱れてしまったそうです。

皆さん、自分の人生でいろいろな状況に出会った時、しっかり自分の考えを持って進んでいますか。それとも、以上の例のように、周りに影響されて、知らないうちに自分がしたくないことまでしてしまいますか。後悔の少ない人生を目指すなら、迷ったときは、先ず一体どういうことか、客観的によく考え、それから判断して、行動したほうがいいでしょう。そうすれば、後で悔やむ行動は少なくなると思います。今度他人に違う意見を言われたら、その意見に支配されてしまわないように、もうちよつとだけ深く考えましょう。

ご清聴どうもありがとうございました。